

## 日本ウマ科学会 2023 年度定時総会 議事録

日時 : 2022 年 11 月 29 日 11 時 10 分から 11 時 50 分

場所 : KFC Hall & Rooms : KFC Hall

山中庶務担当常任理事による開会の辞に続き、会則第 20 条に基づき青木会長が議長となる所、会長が所用で欠席のため、笠嶋副会長を議長に選出。2023 年度定時総会が開催された。なお、議事録署名人に高橋敏之・中西信吾両会員を指名した。

議題ⅠおよびⅡが一括上程された。

議題Ⅰ 2022 年度事業報告（案）について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 正会員数は 25 名増加。名誉会員、賛助会員の増減なし。
- 34 回学術集会での表彰者なし。選考委員会を通して学会賞と奨励賞に各 1 名が選考された。後ほど表彰式を実施。
- 会議は新型コロナウイルス感染症の影響で大半がメールおよびオンラインで実施。
- 出版関係は Journal of Equine Science が 4 号、Hippophile が 4 号それぞれ出版された。
- 国際交流促進事業（海外渡航支援）への応募は 2 件。前期応募の 1 件は採択。
- 広報関係は、予定していたドメイン移行とレスポンシブル化の他、緊急のレンタルサーバー移設が必要となった。
- 招致していた ICEEP12 の開催地を日本とすることが正式に採択されたことが第 3 回常任理事会で報告され、開催準備を進めることになった。

議題Ⅱ 2022 年度収支決算（案）について

半澤会計担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 正会員数は 855 名からの会費収入で、800 名を想定していた予算よりも多くなった。
- 広報費を除いて概ね予算内で執行。
- 広報費の支出増は、jSES.jp へのドメイン移行やレスポンシブル化は想定していたものの、緊急のレンタルサーバー移設の費用が発生したため。

次いで、監査報告が行われ、生野監事から 2022 年 11 月 4 日に業務監査した結果、事業が適正に運営されている旨の報告がなされた。

その後、議題ⅠおよびⅡは原案通り議決された。

議題ⅢとⅣが一括上程された。

議題Ⅲ 2023 年度事業計画（案）について

山中庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 表彰関連は、第 35 回学術集会で日本装蹄協会の佐藤文夫会員が学会賞、JRA 馬事部の溝部文彬会員が奨励賞を受賞し明日の定時総会後に表彰式を開催。
- 会議関連は、引き続き新型コロナウイルス感染に留意しながら実施。
- 出版関係は、例年通り 4 号ずつ発刊予定。
- 馬用語集は、委員会を設置し改訂中。23 年後半に版は完成予定。24 年の予算に計上し発刊。
- 本日中止となった特別講演とシンポジウムについてはオンデマンドで実施。
- 国際交流促進事業については、例年通り上期、下期に分けて募集。
- 認定馬臨床獣医師関係は、明日の試験に 10 名が申し込みを実施。また、初期に認定取得した者が 5 年経過し更新手続きが必要となる。23 年 11 月ごろからの更新手続きに向けて準備。
- ICEEP12 招致を受けて、国際委員長から依頼文を受領。大会組織委員会、開催本部、事務局を設置。その運営のため規約を制定。

#### 議題Ⅳ 2023 年度収支予算（案）について

半澤庶務担当常任理事より資料に基づき説明があった。主な点は以下の通り。

- 会費収入は国内の会員数の 95%と設定し、820 名を想定。海外会員 1 名を加えたものを収入として計上。賛助会員は 20 社 21 口として計上。
- 学術集会参加費収入は、10 月 31 日現在の申込者 163 名の 1.1 倍を想定し、180 名参加と考えすべて一般会員とカウントして計上。
- 支出は例年の支出ベースに合わせて計上。
- 大会開催費については、実施していた過年度を参考に計上。
- 認定馬臨床獣医師会計の収入は前年度の数字を参考に 10 名受験として計上。支出については 5 年更新の事務経費を考慮し作成。

#### 議題Ⅴ その他

特になし。

以上、議事の顛末を記録し、これを証するため署名押印する。

2022 年 12 月 7 日

議 長

聖島 快周



議事録署名人

高橋 敏之



議事録署名人

中西 信吾

